

被爆者「共に前進を」

オバマ氏 広島訪問

握手で言葉交わす

坪井さん「決して諦めない」



オバマ氏(中央)の手を握り言葉を交わした坪井さん(左隣)。岩佐さん(右端)、田中さん(右から3人目)も見守った

ついに被爆地へ、原爆を投下した米国の現職大統領が足を踏み入れた。オバマ氏は27日、広島市中区の平和記念公園にある原爆資料館の見学、原爆慰霊碑への献花、所感表明、被爆者との対面と「歴史的な訪問」に臨んだ。1945年8月6日何が起こり、続いているのか。核兵器がもたらす非人道性を伝え、「核兵器のない世界」をいち早く訴えてきた被爆者たちは、核超大国のリーダーに必死に思いを届けようとした。未来を受け継ぐ若者は、「核なき世界」に向けて具体的に行動してほしい、と所感を耳を澄まして聞いた。核兵器がもたらす非人道性を伝え、「核兵器のない世界」をいち早く訴えてきた被爆者たちは、核超大国のリーダーに必死に思いを届けようとした。未来を受け継ぐ若者は、「核なき世界」に向けて具体的に行動してほしい、と所感を耳を澄まして聞いた。

原爆で心身を傷つけられ、家族を奪われた。偏見や差別にも遭った。苦難から立ち上がった被爆者の全国組織、日本被爆協の幹部3人が、平和記念公園でオバマ氏と言葉を交わした。

坪井さん(左)は、原爆で心身を傷つけられ、家族を奪われた。偏見や差別にも遭った。苦難から立ち上がった被爆者の全国組織、日本被爆協の幹部3人が、平和記念公園でオバマ氏と言葉を交わした。

「廃絶道筋見えぬ」 被爆者、落胆や違和感も

原爆投下時の米大統領トランプ氏と被爆者19年後に面会した森下さん(85)は、広島市佐伯区は、平和と通じ、南側の人垣から、規制線で封鎖された平和記念公園を見詰めた。

「父が生きていれば、新たな一歩を踏み出せた」と感概深かった。戦後の広島市で初の公選市長となり、復興に尽力した浜井信三市長(1905〜80)の長男順三さん(80)は、広島市佐伯区は、平和と通じ、南側の人垣から、規制線で封鎖された平和記念公園を見詰めた。

抱擁 感無量の表情

「12人の死んだ米兵がきつと天国から見ています」と。被爆した米兵捕虜を研究してきた広島市西区の被爆者、森重昭さん(79)は平和記念公園(中区)での訪問行事でオバマ氏と抱擁し、「米兵捕虜の犠牲にきちんと向き合おうという姿勢を感じた」と感無量の表情を見せた。

被爆捕虜研究の森さん

森さんは最前列でオバマ氏の献花を見届け、原爆の犠牲者として「捕虜となっていた十数人の米国人」にも触れた所感を聞いた。終了後、記者団に「戦争に向き合っ



オバマ氏と抱擁する森さん(撮影・山本晋)



「父が生きていれば、新たな一歩を踏み出せた」と感概深かった。戦後の広島市で初の公選市長となり、復興に尽力した浜井信三市長(1905〜80)の長男順三さん(80)は、広島市佐伯区は、平和と通じ、南側の人垣から、規制線で封鎖された平和記念公園を見詰めた。

「新たな一歩」 「抽象的内容」 遺族ら感慨や批判

「父が生きていれば、新たな一歩を踏み出せた」と感概深かった。戦後の広島市で初の公選市長となり、復興に尽力した浜井信三市長(1905〜80)の長男順三さん(80)は、広島市佐伯区は、平和と通じ、南側の人垣から、規制線で封鎖された平和記念公園を見詰めた。



「もっと近くで、表情から心の動きを感じたかった」。大統領が去った後の原爆慰霊碑を前に語る森下さん

この日平和記念公園近くで開いた市民シンポジウムでも「和解や友情」という名の下に、原爆投下の責任を追及できない空気がつくられていた。私たちはもっと怒るべきだ」と力を込めた。

追悼の思い共有
広島・長崎の若者参列
核兵器の悲惨さを訴える活動が続ける広島・長崎両府県若者たち20人も参列席を占めた。追悼の思い共有、広島・長崎の若者参列、核兵器の悲惨さを訴える活動が続ける広島・長崎両府県若者たち20人も参列席を占めた。